

留学報告書 ～出会いと成長～

華東師範大学
国際文化学部生（長期）

私は、約10カ月の間上海にある華東師範大学に長期留学をしました。中国への留学を決めたのは、第2言語で中国語を選択したことがきっかけでした。大学に入学した時点では、留学は全く視野にありませんでした。ですが、中国語を学んでいく中で興味が湧き、ネイティブと話したい！現地で学びたい！と思い中国への留学を決断しました。

日本人の一般的な中国に対するイメージは“治安が悪い”、“汚い”、“怖い”などのマイナスイメージばかりだと思います。私も留学に行く前はそうのように思っていました。しかし、到着して実際に感じた中国は、想像とは全く別のものでした。治安も良く、人も優しく、とても過ごしやすい環境であると感じました。また、私が留学した上海は、経済発展が著しく、海外企業や日系企業が多いため、外国人、日本人が多く、日本食も人気である為、日本食のお店もたくさんありました。



中国に到着して1週間ほどで、学校が始まりました。日本では外国人と関わる機会がなかったので、日本語が通じない環境が怖く、初日の登校日はとても緊張しました。教室に入るとインドネシア人の子が真ん中の席に座っており、どこの席に座ろうかと悩みに悩んだ結果、勇気を出して彼女の隣に座りました。私がなんて話しかけたらいいかわからずにずっと黙っていたら、彼女が優しく声をかけてくれました。人見知りで消極的な性格の私にとっては、最初に彼女が話しかけてくれてすごくうれしかったですし、一瞬で肩の荷が下りた気がしました。そして、お互いにつたない中国語で会話をし、仲良くなることができました。休み時間に彼女が、周りの韓国人の子たちも誘ってランチをしようとしてくれたので、初日にクラスの子と打ち解けることができました。そのインドネシア人の子とは毎日隣で授業を受けたり、一緒に勉強したりしました。2学期目では、クラスが分かれてしまいましたが、たまに日本料理やインドネシア料理を食べに行ったり、お互いの誕生日をお祝いしたりしました。彼女とは、帰国した今でも連絡を取り合っています。また、登校日に味わった、小さな勇気で想像もしていなかった世界に触れられるわくわくドキドキ感が今でも忘れられません。留学をしていなかったら感じるこのできなかった経験であると、帰国して改めて実感しました。

大学の周辺にはたくさんの店が並んでおり、日本で大流行しているタピオカのお店や、中国料理のお店、大型デパート、さらには徒歩10分の場所に地下鉄があるので交通の便もとても良いです。私は大学の門の近くにある黄焖鸡米饭と麻辣烫のお店がお気に入り、多い時は週に2回は食べに行っていました。



《黄焖鸡米饭》

2学期目は、ルームメイトが日本人からタイ人の子に変わったことが一番大きな変化でした。彼女は部屋に来た初日に、初対面の私にタイのお土産をプレゼントしてくれました。初めは、友達でもなく、話したこともない相手にもものをあげる

という考え方にとても驚きました。ですがそのおかげで少し打ち解けられて、私もそのお返しに、日本のお菓子をプレゼントして、出会ってすぐに仲良くなれました。彼女は華東師範大学の本科生の2年生で、上海の前に北京でも留学していたそうで、中国語はとても流暢でした。なので、彼女が出かける準備をしていたら、どこに遊びに行くのか聞いてみたり、休日に何をするのかお互い話したり、母国の恋愛観について語ったりと、できる限りルームメイトと話す努力をして生活していました。もちろん中国語も身につきますが、それぞれ違う国で生まれ、異なる文化、異なる価値観を持っているため、日本しか知らない私にとって、彼女との生活は刺激になることばかりでした。彼女と別れる前日には、人生初めてのタイ料理に連れて行ってくれました。

《終業式》



秋学期の授業では、“母国の〇〇について”などのテーマでよく話し合いになることが多かったのですが、私は自分の思っていたよりも日本のことについて知らず、言葉に詰まることがありました。そんな時、クラスメイトのみんなは、私には思いつかないような日本のいいところや、好きなところをたくさん言ってくれて、とても嬉しかったです。ですが、嬉しさとは裏腹に、なぜ自分の母国なのにこれほどにも知らないことが多いのだろう、と情けなさも感じました。

中国語を学ぶ中でも、日本人は漢字が母国語にある為、読み書きは得意ですが話すことが苦手な人が多いです。逆に他の国の子は話すことが圧倒的に得意であり、読み書きが苦手な人が多いです。生活の中で最も必要なことはコミュニケーションです。話すことができなければ相手のことを知ることもできず、仲良くなることもできません。なので、留学中は机に向かって勉強するのではなく、人と話すことを中心に生活するようにしていました。学校は午前中だけで、中国語を話す時間が少ないので、クラスメイトと2人で上海ディズニーに行ったり、寮にいる時は、中国人の子と電話したりしました。

《疲れも吹き飛ばす外灘の夜景》

今回の長期留学で学んだことを、一言でまとめることはできませんが、その中でも、最も自分自身が変わったと思うことは、“何事も恐れずにまず挑戦してみる”ということです。何事も初めてのことや、未知の世界に触れる時、戸惑いや恐怖心が生まれると思います。ですがそれは、自分勝手にその先のビジョンを想像して、悪い結末になることを想像してしまうからだだと思います。何もしていないのに、自分で自分の限界を決めてしまい、自分自身の世界を狭めてしまっただけなのと今回の留学で学びました。短い人生の中で、自分がどう生きていくかは自分自身で決めることであり、親や友人が決めるものではありません。留学という一つの決断も、私にとっては大きな一歩であったと思います。また、決断するだけでなく、それを行動に移すことこそが大切であると思いました。そして、私は、何事も挑戦してみることで、全く想像していなかった世界を知ること、今後の人生でも大切にしていきたいです。





《多くの観光客が訪れる南京西路》



《何でも揃う大型デパート》